

隠し選挙とイラク出兵——公明党創価学会の危険な亡国体質

講師（政治評論家・椋山女学園大学教授）

川崎 泰 資

ただいまご紹介頂きました、川崎でございます。私、ほんとうは、写真撮られても構わないんですが、ちょっと危険なことがあるのです。その経緯も若干お話しますが、私は、創価学会からすればお尋ね者で、ちよつと言葉が滑ると、その場合に危ないですから警戒しております。

私は一九三四年、昭和九年生まれです。結構な年なんです。生まれたのはこの地、大森です。大森四中というのが隣にありますけども、ここは私の母校で、今日は六十年振りに故郷に帰って来たのです。昭和九年と申しますと、日本でただ一世代、小学校を出ていない世代なんです。小学校がなかった。国民学校に入学して国民学校を卒業した唯一の世代で、昭和九年生まれの人間と、十年の早生まれ、その人達だけが、六年間小学校に行ったことがない。つまり戦争の世代なんです。ですから、私は小国民でありまして、戦う小国民と言われて育ってきたんです。長じて私は、ジャーナリストになりました、NHKの記者をやったんです。

これからお話することの関連として、少し私の事を紹介しておきます。私は一九七七年から、西ドイツのボンにNHKから特派員として行きました。西ドイツの支局長として行った訳です。その時はどんな時かというと、ダブルハインジャック事件というのがありました。日本航空機と西ドイツのルフトハンザ機が、僅か二週間の差でもって、両方共、赤軍に乗っ取られ、ドイツと日本でハイジャックされた。その始末をどうするか大問題になった。ご存知のように、日本はその当時、福田総理大臣。乗っ取り犯全員を、身代金払って釈放しました。福田首相は「人命は地球より

も重い」、「不殺生」、殺してはいけない、乗客を傷つけてはいけない、と決断を下した。世界中から非難を浴びた時に、私はドイツに居た訳です。ドイツは、シュミット首相が、同じ時期に乗っ取りされたルフトハンザ機に対して、特殊部隊を導入。あつという間に犯人を射殺し、解決した。同じ時期に起きたハイジャックにどう対処したか、日本とドイツの差が大変問題になった。日本の方でも問題になったでしょうけど、ドイツの記者からいろんな事を聞かれた。何故そんなことをするんだ、と。日本が金を払って赤軍を解放したために、ドイツのやりようが非常に難しくなった、というよう言われた。その時、日本のドイツ大使をやっていた方は、それに対して答えないんです。私はドイツに行く前はNHKで政治部記者をしておりまして、福田総理の担当だったからよく知ってます。ああ、こういう決断をしたか、と思っていました。そしたら、日本の駐ドイツ大使館が、福田さんの話だったらNHKのボン支局長に聞いてくれ、詳しいから、と言って、私にドイツの記者団を向けたんです。まあ、だらしない話だけど。私はそこで、何人ものドイツの記者を相手にして説明した訳です。乗っ取り犯が悪いに決まってるけれども、シュミットさんのやったように、本当にGSSG9という「特殊部隊」を使った方が良かったのか。そりゃ幸い、あの時は人質に怪我がなかったから良かったけれども、一歩間違えば、爆破するとか全員死ぬとかいうことも有り得る話。紙一重の差であの方はうまくいったのに、日本の総理を非難することは出来ないでしょう。日本の総理大臣は仏教徒なんです。仏教は人を殺さない。殺してはいけないというのが基本なんです。基本の考え方です。有名なようにドイツ人はヘーゲル哲学という、国家至上主義、国家が一番大事だ、国家の為に人もみんな死ぬ、こういう哲学を生んだお国柄だから、あなたの方がそれをやる事に対して我々は批判はしない。だけど、日本の総理大臣が不殺生を基本に、金を払っても人命を傷つけずに解決したことについて、私は日本人としてあなた方に恥ずる事は何も無い、と言い切つたら、こんな大きな顔写真つきの記事が生まれて、日本の今度の特派員はヘーゲル哲学者である、と言ってました。日本の大使館が答えられない事をちゃんと答えたのです。官僚は、そういう風にだらしないんです。私は、何も頼まれて

言った訳じゃないけども、ドイツ人の疑問に日本の代表が答えない、じゃ困るから答えた。

さて翻って、今回のイラク問題。どうですか、これは。人殺しのアメリカに協力する、という事で小泉総理は派兵、出兵をした訳です。そのお先棒を担いだのが公明党・創価学会、という事は周知の事実です。周知の事実なのに、殆どの新聞が本当のことを何も書かない。その話が今日の主題であります。

私は昨日今日こんな事を言い始めたんじゃない、創価学会のやり方については、本当に腹が立って腹が立って仕方がない。もう一つ、腹が立った話をしていきます。「ヤイロの会」、高知県に創価学会を脱会した人達で作られた、ヤイロ鳥の会というのがございます。ヤイロ鳥は、高知県の鳥です。私は、そこに二年前に行きました。今日ここにいらっしやる皆さんのお仲間の、吉橋勝寛先生のご紹介で行った訳です。そこには、私と立教大学の法学部長であった井上さんと二人で行きました。この人は、創価学会との訴訟を引き受けて、日蓮正宗側で弁護をしている方です。大きな会場に数百人の人間が入って、お話をしました。創価学会はこんなに酷い、政治と宗教の関係はこうだ、という話をしたところ、途中で若者が立ち上がって、私を指して「先生の言ってる事はおかしい」、こう言うわけです。私も大声を張り上げて「黙れ！話はいつでも聞くから今は静かに聞け！そういうのが学会員か」ってバーンとやったら、やんやの拍手を受けました。その人は、後で私のところへは来ません。去年、一昨年もありました。東京のジャーナリスト会議の集会で、ニューヨークでビルが爆破された同時テロ事件の後、いろんなところで講演を頼まれて行ったんです。その場合、このことについて、創価学会・公明党は一体何をしてるのか、という事を含めて話したところ、そこでも、創価学会の人が立ち上がって文句言うわけです。黙って聞きなさい、後で来い、と言ったところ、全然来ないですね。彼等は、みんなアライバイ作りに来るんです。今日、この中にそういう方がいるか知りませんが、話はいくらでも聞くから、講演として来てる以上は私の話も聞いて欲しい。自分に都合の悪い事を言ってる人に対して、創価学会はしかるべき会員を差し向けるんです。そして妨害させる。妨害した人間は、帰ってその事を報告する

と、自分の実績になる訳です。こういう事やって来た、と。その時に講師が黙ってしまったては、いいように報告されてしまう。だから私は、そういうのには絶対怯まず、戦う事にしてるんです。大人げないかも知れないけど、戦わないと駄目、衆人環視の中でこれをやつけないと駄目、と私は思っています。

さて、今日の講演の主題はここに書いてある通りで、レジュメが五枚ありますが、とても全部の話はできません。飛び飛びに話しますが、話の主体は一番最初に線で引つ張つてあるところです。政教一致で日本の政治を壟断するのが公明党・創価学会である、それが一つ。もう一つは、私の職業でありますところのジャーナリストへの言論弾圧に、創価学会が先祖帰りしてきた。言論弾圧で日本はおかしくなっている。三つ目、反社会的な行為は今でも続いている、その事実を知らながら告発しない、ここが問題だ、ということをおし上げたい。要点はこの三つです。

私の専らプロとするところは政教一致の問題。これは政治評論家、ジャーナリストとしての物言いです。言論弾圧も、ジャーナリストとしての物言いです。三番目は、ほんとうは社会部記者がやるところなんです。それで、先に結論を申し上げますと、今、日本のジャーナリズムは、創価学会・公明党に手玉に取られて、全く何も物を言わない状況になってます。真に情けない。一般の人は真実を知らされていないのです。今、そういう状況が明解になってきている。今日も、私がここに来る私鉄の中でたまたま、隣に座った人が創価学会員だったんです。聖教新聞を広げて読んでいた。薄汚い、罵倒するような言葉が羅列された新聞を読んでいる。そういう人達は、聖教新聞しか読まないんです。他の新聞はほとんど見ない。だから、そこで連日のように口汚く、創価学会を批判する人を罵れば、それだけが頭に入って、洗脳されての繰り返しです。そういう事を知っているのに、ジャーナリズムは書かない。それが問題なんです。それからもう一つ、今日、最後の方で申し上げるつもりですけども、仏教界の方、僧侶の方達がだらしなすぎます。それを見て見ないフリをするのは何だ、という事です。私は何の関係もないのに戦っている。あなた方は日蓮聖人の言葉を勝手に引用されて、詐称されて、無茶苦茶言われているのに黙っているのか。解釈は色々あるで

しょうけど、こんな解釈がほんとうに正しいのか。日蓮聖人の言葉をインチキに使われて、黙っている僧侶の方達の神経が分からない。皆さん方がもつときちつと声を上げれば、如何に墮落しているマスコミでも書かざるを得ないです。そこまで持つていつて下さい、というのが私の結論です。この結論に至る前に、いろんな事をお話致します。

イラク出兵という事で、ついに、日本から戦後初めて自衛隊が出て行きました、陸海空全部。これは、明らかな憲法違反です。今、自民党政権の中でも、憲法違反と想っている方は半数以上いるんです。だけど、今の政権を支えているのは、公明党・創価学会です。もし彼等が建前通り、我々は平和の集団である、平和を祈ってるんです、と言って反対すれば、法律も出来なかつたし、出兵も出来なかつた。自民党が安心して出兵に踏み切れたのは、公明党・創価学会が加担したから。加担したというより、はつきり言って先導してやらせた、と言った方がいい。そういう事を分かっていながら、政治記者が何も書かないとは一体どういう事なんだ、と。

記者の問題もあるけれども、それは新聞社の問題なんです。新聞社が全部、創価学会に牛耳られて身動きがとれなくなっている。創価学会の批判を書けば、どういった事が起こるか。新聞に、創価学会の池田大作本と言われるこういう一面広告が出なくなる。新聞をお読みになるから、ご覧になつていましょう。これも、今月の十三日に出た朝日新聞です。こういう一面全部。これで、創価学会がいくら朝日新聞に払つていと思ひますか。池田大作全集、新人間革命、聖教新聞。この広告だけです。こんなの見ても買いますか。いやしないんです。当たり前です。こんな馬鹿馬鹿しいもの、誰が買いますか。だけどこの広告を載せる事によつて、創価学会は朝日新聞を牛耳る訳です。これ一回で五千万。読売新聞も、毎日新聞も。毎日新聞はちよつと部数が少ないから、少し安いけれど、朝日と読売は、大体五千万円。これが地方の新聞社まで、ずっと、ぞろつといくわけです。金縛りですよ。黙つて何もしなくても載せてくれるんだから。でも、創価学会はこれで本が売れるわけじゃない。創価学会は、朝日新聞に出てる事だけじゃなく、それ以上大事な事は、こういう広告を出す事によつて、朝日新聞が、或いは他の新聞社も全部、公明党・

創価学会を批判する記事を載せなくなる事なんです。事実、載ってないんです。

皆さん方の中でも、若い方はご存知でしょうけども、今、ドコモ事件が裁判になっていきます。ドコモの携帯電話の盗聴事件です。ご存知ですか。一般の新聞は殆ど書かないから分からないんです。これは大変な事なのです。盗聴といえば皆さんお気づきでしょうけども、盗聴の専門家は創価学会。だから、今回の盗聴も創価学会の幹部級の人がやっている、創価学会のグループがやっている、という事件です。ドコモの携帯電話から盗聴して、その中から特に学会を批判する人達のを抜き出している事が分かって、これは大変だ、と記者会見したのに、新聞社は何も書かないんですよ。東京で書いたのは東京新聞だけなんです。一体どういう事なんだ、と。

かつて創価学会は、共産党の宮本委員長の家、更には緒方国際局長の家に盗聴器を仕掛け、大問題になって、裁判で負け、謝罪もしているんだけど、性懲りもなくまたやっているんです。そりゃあそうでしょう。一九九九年、今から五年前、日本が変わった年、と私は言ってるんですけども、創価学会・公明党が、政権に入った年です。この年、日本では無茶苦茶な事が起きた。今の盗聴法が成立したんです。その直前まで、盗聴法は民主主義の敵だから絶対、いけないと言っていた、公明党の副代表、浜四津という弁護士で女性の議員が、そんなもの絶対駄目だ、と言っていたのが、ころっと変わって賛成し、通したんです。それだけじゃない。国歌国旗法案は通るし、周辺事態法案は通るし、日本の右傾化、今まで自民党がやろうとしてできなかった事が、全部通った。公明党が全部加担している。なんのことはない、公明党が政権に入る代償として、自民党がやりたくて出来なかった事に、全部賛成したのです。政権に入ったなら、そこで何をやったか。今度は、ご存知の商品券ばらまきです。何千億円という金をばらまく。全く経済政策に関係ない公明党だけの主張、創価学会だけの主張を自民党に飲ませる。今度はイラクへの派兵。戦争でもなんでもする、政権に入れたからいい、という事です。

何故そうなるか。これはつきりしてるんです。創価学会池田大作という人は、自分が国家の主になる、日本国の主

になる、と明言してるんです。そして、日蓮宗でいう広宣流布を私はやり遂げる。その為には選挙で勝つ事だ、と言ってるんです。選挙の度に、地方の小さな選挙から何から全部、学会は「法戦」といいます、法律の法に戦うですね。法戦だと、戦わなきゃいけない。法戦法戦って言って、勝つ事が功德になって広宣流布になるんだ、そして、自分が日本の国主になる、日本の柱となる。そういう事を実現する為の政治団体が公明党である、と言ってるんだから、政教一致に他ならないじゃないですか。それを、政教一致は批判を受けたから止めました、なんていうが、なにもやめてない。そんな事は、政治記者だったら誰でも知ってる訳です。知っていてそれを書かない。何故か。それはさつき言ったような、新聞社が、広告で金を社が貰ってるというだけじゃないんです。こんなのは、まだ目に見えるし、証拠が残ってるからみんなに分かる。ああこれで四千万円か、と思うでしょう。そうじゃないんです、もつと酷いんですよ。聖教新聞というのは、何部刷られているかご存知ですか。創価学会の人しか読まない、あの人達は字を読まない人が多いから、本当に読んでは思えないけど、見てるわけです。はっきり言えば、見てる。それが、なんと五五〇万部ですよ、五五〇万。ちなみに、日本で一番発行部数が多いのが読売新聞一千万部、二番目が朝日新聞八〇〇万部、三番目が毎日新聞で約四〇〇万部。これがベスト3。その間にいるんです。三番目に創価学会の聖教新聞が入るわけです。五五〇万部。しかし創価学会の利口な所は、公明新聞を含めて、新聞を刷る輪転機を持ってない。何故か。全部、新聞社に頼んで刷ってもらってる。頼むたって、勿論金を払うんです。よく考えて下さい。輪転機は、朝刊、夕刊刷ったって朝と夜しか使わないんだから、あとは空いてるから、投下資本が全然無駄になる。そこを狙って、空いている時間に刷って下さい、とお願いする形をとって、何千万円も新聞社に払うわけです。その結果、聖教新聞や公明新聞の印刷と広告でしこたま儲けて、金縛りにあった新聞社は何も言えないでしょう。なんとも情けない、そういう実態なんです。酷い話ですよ。朝日も毎日も読売も全部そうですからね、ま、全部そう。聖教新聞の印刷を地方の印刷局で受けて、それが収入源になってる。酷い所を挙げれば、お隣りの神奈川新聞。自社の発行

部数は、二十数万しかないんです。聖教新聞を何部刷ってるかというのと、三十五万部刷ってるんです。自社の新聞よりもつと刷って、それで成り立ってるんだから。そうすると、どういう事が起こるか。みるみる、新聞が変わるわけ。神奈川の地元新聞に、創価学会の池田大作の展覧会が福岡であります、というのが出ちゃうんです。分かります。神奈川の人が福岡の展覧会、何言ってるんだ、と思つたらそういう事なんです。つまり、金で縛られて、そこまでやらされちゃうんです。

去年、今から言えば一昨年になりますが、日中国交回復三十年で、日中は私がやったと言い張った公明党・創価学会の池田大作が、三十周年記念に、地元の新聞に、三十年の思い出つていうものを書きまくって出したわけです。それを出させられた新聞社で、あちこち問題が起こったんです。ほんとに池田大作がやったのか、やったんじゃない、そんなものは。橋渡しはしたかも知れないけども。その事については、公明党で二十年間委員長をやった竹入という人が、自分がやった、と回顧録に書いています。そうすると、公明党がやったんじゃない、実は俺がやらしたんだという事で、二十年間自分のところに仕えた竹入委員長を、誹謗し尽くし、悪罵の限りを尽くし、自分の手柄にする。それはさすがに、大きな新聞では出来ない。朝日新聞、読売新聞では出来ない。地方の新聞でやる。組合で問題になって、あちこちで大変な事になったのが一杯ある、だけど結局は、こういうことで金貰ってるからしょうがないじゃないか、と収まる。そうすると、全国の新聞がそういう風になっちゃうんですよ。なんでも池田大作がやった、と。つまり創価学会の池田大作がやっている事は、そういう事を含めて、歴史の偽造なのです。創価学会は、年配の方はご存知の『創価学会を斬る』という本をお出しになった当時、明治大学の先生だった藤原弘達氏が書かれた本を、創価学会誹謗だといひ、これを出版させないように、言論出版妨害事件というのを起こした。あちこちの書店を回つて、それを置くなと脅し、とどめがご本人に会つてこれをやめてくれ、全部買い取るから、という話をした。その代理人を買つて出たのが、竹入委員長なんです。相手は、言わずと知れた、当時の自民党の幹事長の田中角栄。田中角

栄が「よつしゃよつしゃ」と引き受けてやったんだけど、藤原弘達という学者はそんなやわな学者じゃないから、冗談じゃないそんなもの、ふざけるな、と蹴つ飛ばした。だから本は出た。それで明るみに出て、創価学会は言論出版を妨害した、という事で、天下に謝罪し、池田さんがちゃんと演説もし、謝罪文も読んでる。それが今や、聖教新聞なんかでは全然違う事を言ってるんだそうです。ありや違うんだ、と。嘘を言うことは何とも思わない集団ですから、ほんとうにひどい。その集団が何をしたかという、先程言ったように、日蓮聖人の教えを嘘について誤魔化して、日蓮聖人がこう言ってるんだ、として、何も分からない人を駆り立てるわけです。そのあくどいやり口の最近の例は、週刊新潮が七回八回にわたって「新・創価学会を斬る」、というのを出しました。大変な権力を持った創価学会・公明党に対して、正面から挑んだ唯一の雑誌であり、唯一の記事なんです。週刊誌だからと思って馬鹿にしないで下さい。私はこれを読んで、ほんとに感銘を受けたんです。よくこんな中でやるな、日本もまだ廃ってないと思っただけです。私はこれを全部コピーしてますから、今日、終わった後、読みたいという方は、どうぞコピーしていただいて下さい。自分の気になるところだけでも。大変な話です。憲法違反の山ですよ、憲法違反の山。こんなにひどい政党かという事。一般の人は読むけども、さっきも言ったように学会の人は読まないんです。聖教新聞しか読まないんだから。聖教新聞って、結構高いんですよ。五五〇万部出てるなんて、五五〇万人が読んでるわけがない。信者に買わせる訳です。一人に何部も買わせる訳です、気の毒に。まずしい人達に買わせ、その分は商品券で補填してやる、そんなところです。実にひどい集団だ。日本一の詐欺集団と言っても、決して過言ではない、ということが書いてありますから読んで下さい。この人達が身体張ってる事がよく分かるんです。先程ちょっと申し上げた、高知のヤイロ鳥の会に二年前に行った時、私は高知空港から、警察官三人が付いてきました。身辺警戒、護衛です。なんでそうなったか、よく分かりました。私はそこで講演を応諾した途端に、明るる日かその後から、私の自宅にじゃんじゃん無言電話がかかってくる。何回も何回もかかってくる。なんだろうと思ったら、「先生が講演に来るといいう事が高知の新聞

に出ました」、それだけですよ。恐ろしい集団ですよ。高知じゃよく分かってるからつて、警察が身辺警護を付けるようになってるんです。そんな集団が許されていいのか、つて話ですよ。しかもそれが、公明党という政党を経営して、今や自民党に食い入り、自民党を自由自在に動かし、日本の国家を動かすんですから。今日のタイトルは私の好みではないんですけど、これは伊藤立教先生がお書きになって、まさに「公明党創価学会の危険な亡国体質」、ここまで、と私も数年前は思ったんです。今は全くその通りですね、ほんとに亡国ですよ。これは国を滅ぼしてまです。このままいつたら、えらい事だ。現実にもう、えらい事になってるわけです。私は、その事を申し上げたい。そこで、まず最初にこの中の、四頁目をご覧になって下さい。ともかく、創価学会っていうのは選挙機関である、政党組織である。去年の総選挙を例にとつて説明したものがでてきます。これは主として、『選択』という雑誌から取ってきましたけども、選挙マシーン創価学会、として書いてます。創価学会と公明党は、異体同心なんていつているけど、異体どころじゃない。これはもう一心同体なんです。池田は勝つことは正しい、仏法は勝負だ、勝つために信心はあるんだ、と日蓮聖人が教えてるつて言うんです。これはほんとなんですか。私よりあなたの方がほうがプロだから、お聞きしたい。選挙の結果、どれ位の票を得たかと言えば、衆議院の去年の十一月の選挙では、比例区八七三万票が公明党に入ってるわけです。公明党は八七三万の支持があるとつてるわけです。それをまた、その通りに書く。ほんとうに阿呆な新聞だ。何を言ってるんだか。その一番後の実例に書いてある、小選挙区の実例のうち、自民党当選者一六八人のうち、比例で公明と書いた人を得票数から引けば、自民党は八一人が落選するつていうんです。落選すれば、自民党は第一党ではなくなる訳だし。それより何よりも、東京一二区見て下さい。太田昭宏という、次の公明党の委員長と言われている人。今の委員長は、イラク出兵によって自衛隊員が死んだりします、そして自民党がおかしくなる、小泉はもう駄目だとなつた時に、責任を取らされるのは神崎委員長なんです。創価学会はズルだ。あれは神崎がやったこと、とこうなるんです。そこで、異体なんですね。創価学会は出兵に賛成とはつてな

い、というアリバイ作りに何やったかというと、数千人の出兵反対の署名を集めて、公明党へ持っていったという。この創価学会でそんな事が出来るはずがないじゃないですか。そんなものは上から、オーケー、やれ、と言われたからやったに違いない。それを、学会員にもこうした良心的な人間がいるなんて麗々しく書く新聞があるから、呆れますよ。そんなことは有り得ない。そんなことやってたら、池田大作に首切られ、学会員でいられなくなる。お前等こういう事やつとけ、と言われたに違いないんです。絶対間違いない、と私は思ってますよ。それが記者の常識です。しかしそれを書かない。書けば書いたで、恰も公明党・創価学会には良心的な分子がいる、と書く。それは嘘八百だ。出兵が危険な要素だと分かっているから、危険な時は学会でなく、公明党がやったんだ、神崎がやったんだ、という。神崎潰したらどうするか。その為に、委員長候補者に擬しているのが太田なんです。やはり選挙区で当選した者でないと、委員長にはまずいんじゃないかという事で、東京十二区から太田という候補者を出した。そして、自民党はその候補者を降ろした。自民党はそこまで協力する。候補者を降ろして、公明党だけの候補者にする。太田の選挙ポスターを見れば、上に小泉純一郎、下に安倍晋三、自民党の総裁と幹事長にサンドイッチになった太田の写真が、ばーつとくる。まるで自民党の候補者そのけです。公明党だなんて誰も分かんない。そういう詐欺まがいのことをやって、自民党も協力してるわけだ。その代償は、東京の二十四選挙区の一つだけは太田さんにください、あとの二十三は全部自民党の候補者にさしあげ、創価学会は支援します、票を入れます、当選させるようになります、こういう約束だ。一対二十三のバーターっていう事です。しかしそれだけではなく、小選挙区の自民党の候補者を応援するけれど、その候補者は自分の後援会に、比例区は公明党、と書くように呼び掛けてくれと言ったんです。そしたら自民党の候補者でほんとに、比例は公明でお願いします、と言った人がいるんだから。小選挙区は私に入れて下さい、選挙区は私、比例区は公明党です。そんな馬鹿な政党があるんですか。これは、日本の政党政治を根本から狂わすものです。そう書いた人も集まって全国で八七三万。それを、恰も公明党だけでやったようにするのは

嘘八百だ。そんな事を知っていながら、おお公明党は伸びたな、すごいな、なんて思わせるのは詐欺に加担したのと同じじゃないですか。一般の人はそんな事知りもしないし、分からないですから、報道して初めて分かる訳です。新聞が報道しないのは、実にけしからん話ですよ。今言ったような事を書けば脅される、金が貰えなくなる、こういう事です。一九九九年まで公明党は自民党に尻尾振って、なんだみつともない、という事が永田町での評判で、ここに書いてある俗語です、「踏まれてもついていきます下駄の雪」と。踏まれても踏まれてもついていかなきゃならないのは下駄の雪、公明党は下駄の雪だ、と言ったのが、今や公明党は「下駄の鼻緒」だという。下駄の鼻緒、なくてはならない存在になった、という事です。選挙に関心のある方は去年の暮れの選挙の結果、びつくりしただろうと思いますけれども、全部の放送局が選挙予測を間違っちゃった。問題は、そこに書いてある「不在者投票」なんです。放送局も新聞社も、開票日には、出口調査というのをします。世論調査と違って、出口調査は投票所から出て来た所で聞く、どこに入れましたかと聞くんです。終わった後だから、大体皆が正直に答える。だから、出口調査の結果は大きく狂う事はないんです。けれども、今回は出口調査と嘯み合わせて予測したところ、民主党が二〇〇議席を超す、なんていう事がぼーんと出てきて放送した。ところが案に相違して、民主党は伸びなかった。自民党と公明党は伸びた。何故か。これは、不在者投票が原因です。不在者投票っていうのは、その時、その日に仕事があつてどうしても行けない人のために設けられた制度なのに、公明党・創価学会はこれを悪用し、選挙運動で一番活動量の多い学会員全部に不在者投票させてしまった。当日には、フレンド票という、なんかわけの分かんない票を駆り出すために、不在者投票をした学会員を使うんだと。だから今回は、不在者投票がなんと七〇〇万人に達したというんです、七〇〇万人に。全部の有効投票の約一割になっちゃうんですよ。こんな事、普通では有り得ない話です。それを公明党はやった。だから公明党の幹部が意気揚々と、七〇〇万人の不在者投票のうち、少なく見ても五割、七割は公明党の票です、と。七割だったら七×七＝四十九だから五〇〇万票。ガリガリの公明党信者が始めに不在者投票に入れて

るわけだから、その分は出口調査には出てこない。調査の結果はみんな間違っちゃうんです。創価学会はそういう事をやるわけ。その人達は何かっていったら、当日駆り出しと行って、行きたくもない人をいろんな事で釣って無理矢理投票所に連れて行く。そして、公明党支持者を増やす。選挙の出口調査を100%狂わせたのは、公明党の不在者投票です。それだけじゃない、二つ目に書いた、世論調査です。世論調査と称する電話がかかってきた方、かなりいると思います。選挙でどこの党に入れますか、誰に入れますか、差し支えなかったら聞かせて下さい。公的な世論調査の機関のようなフリをして電話をかけてくる。そして、公明党と言わずに、自民党の後援会名簿を貰って、そこに行つて口説いている。公明党・創価学会の人間は、貴方に票を入れるんだから、貴方の所の支持者には、比例票は公明と書かせて下さい、分かりました、となるんです。分かりました、のウラを取るっていうんで、後援会の名簿貰って、全部逐一かけまくるんだから。公的な機関を名乗って電話をかける。普通の人はこれ位いいだろう、と答える。そうすると、公明党って言わなかった人はチェックして、名簿出した所に行つて、お前んとこ嘘じゃないか、そんなんで票を出せるか、とこうやる。もう無茶苦茶だ、これは。これは暴力団の取り立て、そのけですよ。暴力団だつて、相当しつかりしてないところまで出来ない。これをやる。皆さん方の宗派の名簿もそうかも知れないけど、ついちよつと前まで、後援会の名簿は大事にしなきゃいけないものだ、と抱え込んで離さない。これ出してくれなかったら落とす、と言われ、仕方なく出したら、そういう風に使われる、全部筒抜けなんです。そりやそうでしょう。さつき言ったように、ドコモの携帯電話の通信秘密を全部盗んじやうのような団体なんだから、なんでもありですよ。そうやって、日本は無茶苦茶にされていつているんです。言った通りやってないじゃないか、学会票は回します、あの比例区には公明党と書かせます、と言つたのに約束を果たしてない、と公明党にやられたら、みんなほんとにびつくりしちゃいますね。やつと創価学会の票を貰って当選できるかと思つたのに、これじゃ困る。だから、もう一回支持者にお願いする。自民党の支持者の中にはそれで言う事きいた人が、一杯いるわけです。おらが代議士は前も落つこつ

た、その前も落つこつた、どうやつても駄目だ。学会の票がなかつたら、駄目だったらしょうがないだろう、目をぶるか、と。これじゃあ、公明な選挙とは到底言えない。日本はそこまできてるんです。その票が、ほぼ一割ある、こんな民主国家があるんですか、と。なんでそういう事を新聞は書かないんだ。やれ公明党が躍進だの、他の政党が退潮する中で公明党が伸びただの、何を言ってるんだと。しかも、公明党は、全然約束通りなんてしてないんです。約束はこういう事。東京で言えば、十二区の太田に、一所懸命やつてくれれば他の二十三区は全部応援しますよ、と言ったけれども、さっきのように後援会名簿を貰って、選別するんです。その個人個人がどれだけ公明党・創価学会に対して友好的かどうか。つまり、個人の公明党・創価学会に対する忠誠心によって票を動かすつてこと。忠誠心がなきゃどうなるか、お分かりでしょう。お隣の目黒区、ここを基盤にする自民党の代議士。これは日蓮宗の檀徒なんですけれども、公明党・創価学会の票欲しさに、向こうにお願いに行つたという事が分かつた。こちらは怒つたそうですけれども、名前言つていいんですか。言わなくとも解つてますな。そういう人、いっぱいいるんです。情けないじゃないですか。こんな今回始まつた事じゃない、とよく知ってるんです。経歴にも書いてあるように、私はNHKを辞めた後、大阪の方の先生になつたんです。大阪からこの仕事をスタートしたんです。大阪では有名な、真宗大谷派の立派なお寺の主で、自民党の党員で法務大臣も務められた、佐藤恵という人がいるんです。この人は、大阪仏教界の政治関係の代表者として、ずーつとやつてきた。私は、たまたまその人の経営する大学に勤めた。だけど、そんな事はものともせずに、これはおかしい、と放送や講演でやつたんです。何故かと言つたら、自分の選挙時に公明党に頼み込みに行つて、選挙事務所から自分の宗派の物を全部引き抜いて、公明党の言う通り部屋まで飾り付ける。恐ろしい。何が真宗大谷派の門徒代表だ、こんないい加減な者がいるから駄目になるんじゃないか、と私は大阪の仏教界の総会で本人を目の前に置いてやりあげたんです。くしゅんとして、いなくなりました。私にやられて以来出てこなくなつた。そういう風に、いい加減な事で票を取つてる人がいっぱいいるわけだ。だけど、日蓮宗も皆さん情け

ないんだ。こないだ自民党の大会で、友好団体の表彰表の中に日蓮宗が入ってる。今日私が話してるような、公明党・創価学会と一緒になってるような自民党から、なんで日蓮宗は友好団体として表彰受けなきゃならないんだ。そんなものは叩き返せ、ていうんです。私に言わせればそれ位の気力がなくて日蓮聖人を信仰したことになるか、ていうんです。そんなことを呑んだえらい人、責任者がいるのかも知れない。責任取って貰いたい、と私は思いますよ。創価学会と結託したこんな自民党を我々は応援する気はないし、あんたらから表彰を受ける覚えはない、と言ってこそ、初めて日蓮さんですよ。あんまりいい加減な事をしないで貰いたい。ただ、今日は講演に招かれてこんな悪態ついちゃ悪いけど。私はほんとにそう思うんだ。私も皆さん方と格は全然違うけども、実は去年から日蓮宗の檀徒になりまして、ほんとなんです。私はずーつと次男坊で、墓なんかなかったんです。だから私は散骨でいい、墓なんかいらん、とずーつと言っていたのに、あるご縁で、私の任んでる近くの日蓮宗の方に勧められて、説得されて、墓を手に入れました。情けなや、情けなやなんて言っちゃいけないですが、檀徒になりました、お仲間です、どうぞ宜しく願います。だから言うんです、だから。ほんとにやって欲しい。自民党のインチキを叩き直すには、仏教界がそういうきちつとした行動をとれば、自民党も少しは変わりますよ、実際に議員が言ってるんだから。しつかりやってくれるんだつたらやつてもいい、と。だけど、やってくれるのは公明党だけじゃない、創価学会だけじゃない、と。それで、ひよつと見れば自分の入ってる宗派の方は、自民党となあなあでいいことやってるんじゃないか、これではやってられるか、とこんな風になります。だから仏教界が、全日本仏教会が仕掛ける、と。自民党なんか応援できるか、とやりやあいんです。はつきりやった方がいい。既成仏教界はそこが駄目です。ほんと駄目だ。あなた方は、新興宗教として馬鹿にするかも知れないけど、立正佼成会がまだました、戦ってるもの。学会と戦う意志がある。小なりと雖も頑張ってる。その事を日蓮聖人の関係団体が全国でやってごらんさない、檀信徒挙げて。ほんとうに世の中がらつと変わりますよ。そういつちや何だけど、もともと浄土宗なんてのは、戦争賛成みたいなところがある宗教で

す。日蓮聖人は戦いは好きだったかも知れないけど、戦争は好きじゃないですよ。ならば復活って、皆さん方が仏教界を動かしていったなら、世の中は変わる。派兵なんかしなくて済む。インチキな憲法改正なんかしなくて済む。今、池田大作と小泉がやってる事は全く同じですよ。池田大作は日蓮聖人の教えをつまみ食いして、自分で適当に解釈していい加減な事言ってる。詐称して、つまみ食いです。小泉は何か。これもつまみ食い。憲法の前文からみて、派兵は問題でない、誰がそんな事言えるんだ。これは憲法前文の一部をつまみ食いしたもの。つまみ食い両者の共通点であります。自分の都合のいいとこだけとって、わーつとやる。やり方がそっくりですよ。同じ種類の人間がもう一人いる、ブッシュ。毛色変わってるけれど、これも同じ。ブッシュと小泉はまるで兄弟。戦争兄弟です。こんな訳の分からない兄弟に入り込んでいいのか。ブッシュはキリスト教の原理主義者、福音教会の人間なんです。キリスト教全部が悪いんじゃないけど、福音教会のガリガリっていうのは、政治的なネオコンと結び付いた時に、こういう戦争を何度もする。大量破壊兵器がなくても、あつたように言う。平気でやるわけです。小泉と池田が結び付いたという事は、それとおなじ事です。小泉にそこまでの宗教心はないけれど、小泉のインチキ性と、池田のファシズムが結び付いた時は、まさにブッシュのイラク戦争と同じ事なんです。事実、現実起こった。池田+小泉でブッシュと同じ事やってる。これは普通の考え方です。こんな危険な政権を日本に野放ししていいのか。アライ作りだけは一生懸命やる。明日、池田が違う事言ったらみんな違うから、公明党の議員の言う事は、委員長始め、誰の言う事も全く信用できない。一晩で数万の票が動くという現実を見ているから、自民党は恐がって駄目なんです。昨日まで、民主党を応援していたのが、大作がひとこと言ったら、みんな自民党にきちゃう。そうすると、今の衆議院の小選挙区は三〇〇。三〇〇を学会員の票で割ると一選挙区に二万から三万はあるんです。一選挙区に二万から三万の学会票があるんです。親方が言ったら、それが一晩で、右へ倣え、とぼつと動いてしまったら。大体、二十万票位で小選挙区は当選するんです。そこに行つてこい、逆になったらどうなりますか。大抵ひっくり返っちゃうんです。だからみ

んな怖いんです。だから自民党が寝返つちゃうんです。投票率が六〇%から七〇%に上がったたら、公明党はみんな落ちるし、自民党も殆ど駄目になるでしょう。それは有権者が悪いと言つたらそれまでだけど、ちよつと言えば二―三万票すつと動くような組織つてありますか。私の知つてる範囲では、暴力団とナチしかない。暴力団は親方がこう言つたらこう、白いものを黒つて言つたら黒つてやらなきゃいけない。そうじゃなかったら住めない。創価学会も同じです。池田大作がこうだ、と言つたら従わなくちゃ駄目なんです。従わないと地獄に落ちる、と言つてる。それが日蓮の教えだ、と言つてるんだから。こんないい加減な事を言われて、本家の日蓮宗はどうすんのかつて事です。私は心から怒つてるんです。私も冒頭申し上げたように、昭和九年生まれの七十歳、古希ですよ。古希になつて大声張り上げて、この野郎つて言わなきゃならない、情けないです。だけど言わないと駄目になる。言つても駄目かも知れないけど、私は死ぬまで言うつもりです。本当に心してやつて欲しいんです。

それで、ここに書いてある实例の福岡一区、四区。これは民主党の代表です。松本、榎崎、神奈川五区の田中慶秋、これも民主党です。ここで創価学会は民主党に入れてるんです。個人による選別だ、と称して。実は、これらの選挙区で自民党候補者は、反学会なんです。創価学会なんか信用できるか、公明党はなんだ、と言つている人だけです。そういうところでは自民党に入れずに、民主党に入れるんです。そういうところが全国に幾つもあるわけです。だから、自民党と一緒にやつてるからけしからん、だけじゃない。実は民主党にも、こうやつて巣くつてる。民主党も浸食されてるわけです。情けない話ですけど、そうなんです。だけど、創価学会、池田大作にすればそんなものは何とも思わない。自分等が政権にいればいい、それだけの話だから。こつちが駄目なら、いつも応援してくれるところにこつこつこう、と。明日くつついてもいいように、ちゃんと準備してるんです。今は自民党がいいからくつついてます。明日は民主党でもいい。前の小沢一郎なんてそうだった。新進党の小沢一郎にくつついて行って、駄目になつて。あなた方の代表も含めて、自民党が四月会というのを作つて、そこで学会叩きをやつたでしょう。ふざけるな、

池田大作を証人喚問に出せ、と。そしたら、学会は干上がっちゃって、ばーつと一八〇度転換して、自民党にくつついて、応援して、政権とつて。自民党政権が敗れたら、今度は政権取った方へ行くんです。その準備が、イラク戦争反対、という学会員を使つてのアリバイ作りです。いつでも反対派の方に行けるように。いやいやそれは学会がやったことじゃないんです、公明党がやったことですから、すみません、と今日言つたつておかしくない。それが宗教者ですか。私なんかそういうのが日蓮の弟子信者を名乗つてやつてる事がほんと信じられない。これは詐欺ではないかと思ひますよ。

次は公明党の生き方、公明党の政権参加の理屈は全て偽りだった、と書いてあります。自分達が政権にいたいだけ。政権の中に入って何をしたいか、公明党議員は知りません。政教分離はしてますと言つた以上、池田大作は、自分が天下を取る、となかなか正面きつては言いにくいけども、池田教を日本の国教にする、国の教えにする、という事は彼の念願なんだから。そして、その為にはなんでもします。自民党が一党だけで出来なかつた、自民党の右傾化と称するもの、或いは国家主義化にも全て賛成します。その為には辛抱します。信教の自由、政治との分離も約束します、と口だけでは約束する。全部、政権にすり寄るための単なるごまかしだ。靖国神社参拝は、反対の方が大多数だと思ふけども、公明党創価学会は反対だ、と言つたのに、今では小泉が何か言つたつて反対一つしない。今回の創価学会のイラク派兵反対署名のいかがわしさ、これはまさにアリバイ作りなんです。で行き着く先ははつきり見えってきました。去年、有事法制つて、そして今度は国民保護法制が出来、個人情報保護法も出来ました。テロ対策特別措置法が出来て、イラク派遣法が出来て、イラク派兵、と止めどなく、日本は戦争の道へ進んでる。これ全部、元凶は創価学会・公明党ですから。選挙やつたら惨敗するから自民党だけだつたら出来ない、自民党だけだつたら怖くて出来ない。それを公明党が支えてくれるから、出来てる。もはや、持ちつ持たれつなんて関係じゃない。公明党・創価学会が一心団体から、自民党と創価学会が一心団体になりかかっている、だから怖い、だから亡国なんで

す。間違いなく、それじゃかなわん、と言って逃げ出す自民党員がいますよ。だけど、まだそこまでいかない。そこまで行かせていいのか、という事です。

皆さん、隣人、友達には、年金生活者もいっぱいいるでしょう。年金制度の改悪、さらには医療保険制度の改悪、全部公明党がやっているんです。何故そういう事をやるのか、説明しましょう。はつきり言いますと、公明党・創価学会信者には、税金払ってる人は少ないんです。普通の経済対策とかは、必ず減税です。所得税の減税でみんなの購買力を上げる、これは天下の常道。公明党・創価学会はそれをやったら困るんです。何故困るかと言えば、減税されても税金払ってる人がいないから、何にも実入りにならない、だから、金券をくれ、と。金券じゃないと創価学会の支持者に対してはプラスにならない。私が大阪にいる時、あの商品券が出て、放送でがんがんやったら、学校まで押しかけてきて、私に文句言いたい、と。どこでも話聞くと、と聞いて、どういふことかと言ったら、きちつとそういう事まで話すわけです。私の中にはいない、税金払っていないから。支持者に協力求めに行っても見返りがなきやいけないから、これは必要だ、と。年金も同じなんです。年金を払ってまともに勤めてる人なんか、他の政党支持者に較べれば少ないんです。だから、ああいう事が平気で出来るんです。国民の大多数が困る、と言って大合唱してる年金法の改悪は進める、商品券は出す、ばらまきです。今度は小学校三年生まで児童手当を出す、なんですか一体。自分の支持者の懐を肥やすためにばらまき、こんなことがあっていいのか、つて話でしょう。ばらまくだけじゃない。そのあがりには財務と称して、創価学会が吸い上げるわけです。極端な例を申し上げます。財務として創価学会に払うお金がない人に指導して、夫婦別れをさせ、生活保護を受けさせる。生活保護から財務を上納させる、という手まで使ったらどうなりますか。皆さん方の信者の周辺に、そういう人達が必ず居るはずですよ。皆さん、きちつとした地域活動をして下さいよ。いっぱい出てくるんだから。私が住んでいる東京の世田谷ですが、駅に近いところに都営住宅がある。私が行く床屋に、公明党の選挙ポスターが貼ってあるから聞いてみると、あの人達が来て、置いてく

れつて言うから貼るんです。仕方がない。だけど、都営の団地が、今や殆ど学会員。もう殆ど都営の古いアパートは出ていきます。最後に残ったのは学会員。今度、その空いた所に入れてくれつつ来るのは公明党。それが公明党・創価学会の世話役活動です。公正に抽選しているかどうか知らないけど、気が付けば公明党アパートになつて。アパートの掲示板に公明党のポスターが、ぼんと貼つてあるところだつてあるでしょう。創価王国ですよ。王国のついでに申しあげれば、八王子市を創価市に変える案がいまに出されますよ。創価市。八王子は創価学会の大本山です。創価学会の創価大学の回りには何にもない。信濃町の創価学会施設とは違って、八王子は正に創価学会の聖域になつている。八王子市を創価市に変えよう、とまで考えてるんですよ。住民投票があるから、そんな簡単にいくとは思えないけど、これはどえらい話になりますよ。そこまで思い上がつてきているんです。正に亡国じゃないですか。亡国の前に、まず自分の住んでる市町村がそうなつてしまふ。皆さん、信濃町へ行った事ありますか。あそこ異様でしょ。信濃町なんか、まともに歩けません。特に私なんか、歩けない。何処にどういった写真があるか分かんない。怖くて歩けない。そういう風になるんです。そうすると、ある人は奈良県には天理市があるじゃないかと言います。創価市だつていいじゃないか、と。こういうのが彼等の言い分です。それとこれは違うと思いませんか。天理教は、政教一致で政治までくちばし入れて、ガンガンやってません。やりもしない。こういう事を言う人もいる。先生は創価学会を批判する、宗教を批判する。ドイツにはキリスト教民主同盟、キリスト教社会同盟がある、と。私もドイツで仕事してましたから知ってます。名前はそうだけでも、キリスト教の本部から命令を受けてやっているわけではない。ただキリストの慈愛の精神を、という話です。創価精神は、票を取つて来いという精神。そんなものと一緒たにされたら、たまりませんよ。名前だけで言つたら嘘だ。だから私は言つてるんです、創価学会は宗教ではない、と。宗教を騙る政治集団である、と。あれでも仏教と認めるか、全日本仏教会もしつかりしなきゃいけない。言つてる事は酷い話です。本当にこの世のものとは思えない位の、罵詈雑言を大きな活字で書いた新聞を毎日出す。こんな

事が法治国家で許されているのか。そういう事を知らない真面目な僧侶の方には申し訳ないけど、『週刊新潮』の三回目の記事はこうです。ゴキブリ、犬畜生、こういう言葉が毎日のように聖教新聞に出ているんだから。私も本当にびつくりしましたよ。本当にびつくりする。こういうゲス、蛇、犬畜生、ガセネタ屋、薄汚いドブネズミ、人間の皮をかぶった鬼畜とか、自分の事じゃないですか。いんちき坊主とか、殆ど自分の事を言ってるのと同じなんですけど、毎日のようにこれを書く。しかも、こういう事を日蓮聖人が仰るといふ風に言うんだから、これは詐欺じゃないですか。池田の口を通じて、これは日蓮聖人もそう仰ってるんだ、戦えというのはこういう事だ、と。こんな事やられていいのか。酷いですね。日蓮宗とは違って、この人達の元の出は日蓮正宗だから、気の毒に日蓮正宗は、今戦ってる訳です。よく踏みこたえて、正本堂も打ち壊して頑張っている。創価学会の正体にちよつと気付くのが遅すぎたから、むちゃくちゃにされたけど、これからも頑張るんだったら、あなた方も日蓮正宗に温かい手を差し伸べて下さい。日蓮聖人を共に信仰するならば。日蓮正宗と私は、何か縁があるわけじゃないです。だけど、こんな酷いこと戦っているところは、ともかく気の毒になる。人でなしというのはこういう人達の事を言うんだろう、はつきり言つて暴力集団ですよ。皆さん方が、これをほんとに宗教者の集団として認めるかどうか、今日の話の要だと、私は思うんです。いろんな事言いたい事がありますが、ともかく問題は、彼等が今年七月の参議院選挙が、広宣布最後の年だ、と言つてる事なんです。一千万票取る事が功德の最たるもので、これによつて勝ち抜いたら、もう広宣布が出来た、という。私は確信を持って、出来ないと申し上げます。それは、出来ないようにしなきゃいかんです。できていいぞ、八七三万もあつたんだから、今度は一〇〇〇万票できていいぞ、と。そんなことあるはずはないんですけども。だけれども、彼等はそうやって、選挙が宗教活動だ、つて言ってるんですから。そんな団体を認めていいのか、つていう事です。選挙が宗教活動、選挙が信心、選挙運動をしてない奴は信心してないのと同じ、地獄に落ちる、とこういう訳でしょ。だから私は本当に、まともな人が少しでもまともによれば、変わると思うんで

す。私は今、名古屋の大学に勤めていますが、学生に対してここでも私はやるわけです。布教をやる訳じゃないですよ。布教じゃなく、創価学会に騙されるな、とやる訳です。きちつと授業でもやります。そして、私が行った四年前、大学祭の時に創価学会のポスターがあつて、池田大作の写真が飾られていた。これがクラブ活動ですよ。サークルがあるつてのを見つけて、私は直ちに大学当局に抗議して、教授会でこれは何だ、とやつて、サークル活動を止めさせたんです。池田大作の写真があつて、創価学会の活動を大学生にやらせる訳です。こんな馬鹿なことをやらしていいのか、とやめさせました。その事が評判になったらどういふ事が起こったかというのと、締め切っちゃった後に創価学会を脱会した人の娘さんが来て、私のゼミに入れて欲しい、と言うんです。何かと聞いたら、私の両親は創価学会を脱退して、今酷い目にあつてるんです、と。兄もこういう酷い目に遭つて、私もこういう酷い目に遭つて、もう創価学会とは関わっちゃいけないと思つた、と。ほんとうにそう思つて関わらないことにして、親も関わるなつて言うんです。そしたら、週刊新潮の「新創価学会を切る」シリーズの第一回に、梶山女学園大学の先生として私の話が出てるんです。こんなところにお前の学校の先生が載つてていいのか、命は大丈夫か、と親に言われたつていうんです。ここに書いてある談話は、当たり前前の事言つてるだけなんだからたいした事ないでしょ、それでも、創価学会を批判する書き物の中に、私の談話が出たつてことで、親御さんが私を心配してくれたんです。大丈夫か、と言つたんですから。心配するな、と言つたら、是非、先生のゼミに入りたい、親は止めなさいつて言うけど、私は入る。これから一年間教えるんです。頑張ればそういう人が出てくるんです。命の危険にさらされている人でも、親も説得して、私の授業に出てくるんです。やればできるんです。ましてやあなた方、胸に手を置いて考えて下さい、自省して下さい。日蓮宗の宗教者として、自分はやるべき事をやってきたのか、という事。私もこういう事に関わりあつて、NHKを辞めた後、大学の先生になつて、真つ先にやったのが、ここにも書いてある大阪の毎日放送で政治評論家として、ジャーナリストとして、コメンテーターやつてるんです。今でも続いています。政治評論家として十年前に、

初っ端から、創価学会批判をやったんです。ご存知のように大阪は学会の本場で、そんな事やったら大変だというのに、僕はやったんです。生放送だから出来るんです。そしたら、私のやる時間のラジオの聴取率がダントツになった。こんな創価学会を批判する人は初めてだ、よくやってくれた、と放送局に電話がかかってきた。二回目からは、とんでもない奴が出るからよく聞け、といって創価学会関係者がきくことになる。創価学会のシンパと、学会批判者と両方が聞くから、聴取率ナンバーワン。私は東京弁で喋ってますから、大阪では珍しい。よく分かるんです。タクシーに乗っても、運転手が、あれ、学会の事を言う先生でしょ、って言われて、私も危ないかと思っただけでも、いや今日の聞いて良かったですよ、とそういう話になる。ここ数年は、東京のスタジオから放送やってるんです。そういう事やってるんです。頑張ればできる、という事を私は言いたいんです。そうすると、同調者が増えていくんです。その放送局も、創価学会からじゃんじゃん電話かかってきてけしからん、何だ、と。だけど、二回、三回と続けるうちに、支持者の方が圧倒的に多くなった。七割方はよくやってくれた、という風になってきた。だから、続けてくれと言うんですよ。だから、私もやりましょう、身体張ってやりますよ、と。だけど、生放送にして下さい、生じゃないとカットされる恐れがある、カットしたんじゃ何の役にも立たないから、と今でも生放送。現在、月に一回位ですが、生放送をやってます。だから大阪へ行くと、私は命を狙われるおそれがある訳です、私の命を狙われようとうしようとな手な話ですが。もう時間が来たのかな、そろそろ締め括りに入らなきゃいけないですね。今日頂いたこの冊子にも、創価学会の事が色々書いてありますから、それはそれで読み頂くとして、最後に一つだけ。ここまて来たか亡国の、ということ、代表例を挙げさせて頂きます。これはいづれかの日には明らかになるでしょう。創価学会の離脱会者で、乙骨正生という人がいます。ご存知でしょう。彼も身体張ってやってるんでしよう、よく分かりました。彼を知ったのは、遅いんです。大阪で私はこういう事やってるもんですから、大阪の仏教界から毎年シンポジウムに呼ばれて、数百人の袈裟掛けのお坊さんを前に、シンポジウムとか講演とか色々やるんです。齒に衣着せ

ず、バチバチやるもんですから、その中ではつきりした事があるんです。戦わなきゃ駄目だ、戦えばついてくる人はいる、という事であります。それで、その席に乙骨君が来て、質問してわかったんです。東村山事件ってご存知ですか。これは明らかに謀殺ですよ。やっと今年になって、『月刊現代』に魚住君という元共同通信の記者が、真実に一番近いところを書き始めた。名前も出てくる。公明党の藤井という都議会議員、更に、自民党からは亀井、と名前が出てくる。明らかにこれは謀殺です。何故そうなってしまうか。警察も検察も裁判所も、全部学会員で固めてる。その事が、総体革命っていう訳です。各職場全部に全部学会員を送り込んで、それで牛耳っていかう、なんでもできる、白を黒と言える、と。殺人を事故に切り替える事はいとも容易というのが、東村山事件ではないですか。日本にお天道様がある限り、あなた方が頑張る限り、この事は絶対に明らかにしていかなくやいけない問題だと思います。なぜかという、先程も申し上げたように、ヤイ口鳥の会に講師に行つて、警察が付いた訳です。その二年程前、そこに明るる日に行くと言つていた東村山市会議員の朝木さんが、殺された本人なのです。ちゃんと約束して、講演する事になってたんです。その会に、私は知らずにたまたま呼ばれて行つて、二年後にやった。冗談じゃなく、命は危ないんです。危なくても、やらなきゃいけない事はやらなきゃいかんでしょう。皆さん方も頑張つて欲しい。最後にお願ひします。皆さんの檀家でも何でも、自分の回りでの創価学会の酷い話を集めて、聞き書きを作つたらいかがですか。聞き書きを作つて下さい。そして、宗務院で全部集めたらいいでしょう。これを、全国の日蓮宗の方、或いは仏教界の方にやって貰えば、具体的なケースはいっぱいある訳です。今、この世の中大変な事になってるんですよ。去年行つた宮崎県でも、こういう会で質問があつて、後で私のところに来た人が、実は大変なんだ、と。僅か十数人の教員しかいない小学校で、四人も五人も、創価大学出身の先生になった。本当にこれでやってけるんですか、私は心配です、と。だけど子供を預けるから何とも言えないし、こんなのでいいですか、と言われた。総体革命はそこまで来てるんです。教育は破られ、人の命は奪われ、池田が総理大臣になる。無反省な小泉がくつついて、呑気に自衛隊

員を送つて。創価学会は、それで怪我人が出ようと、次は違う方にのり替えるだけ。こんな集団を無視していいのか、という事を最後に申し上げたいんです。かつて権勢を誇った田中角栄という総理大臣が潰れたのは、ジャーナリストの立花隆が、それまで明らかになっていろいろな事を、資料として一冊の本にまとめ上げたから。ああ、こんなに酷いのか、とみんなが分かったわけです。皆さん方の信者は創価学会の生活保護費の不当な受給とか、公団住宅への入居とか、いろいろな事をいっぱい知ってるはずです。その事を取り上げて、きちつと宗務院にあげたらどうです。宗務院でまとめて、一冊の本にして出す。全日本仏教会を動かし、仏教界を動かし、政治家を動かし、そして変えていこうじゃないか、という事を最後のお願いとして、今日のお話を終わらせて頂きます。どうもありがとうございます。 (拍手)